



果樹特報

No.5

平成 25 年 5 月 31 日
J A 中野市営農センター
J A 中野市りんご・もも部会

6 月上旬から梅雨明けまでは、輪紋病・炭そ病・褐斑病の最重要防除期間です。6 月以降の散布薬剤は基本的に予防効果を前提としています。概ね 15 日間隔で進めますが、雨や曇天が続く場合は、前倒して散布するようにこころがけましょう。また、5 月下旬からカメムシ類・カイガラムシ類の発生が見られます。害虫発生が少ないうちに防除しておくことが有効となりますので、場合により特別散布等を実施しましょう。（詳しくは下記の内容を参考にしてください）

りんご

6 月上旬の薬剤散布（前回より 15 日後）

散布時期： 6 月 5 日～10 日 *注意事項①、⑥参照

散布薬剤： 水	1 0 0 リットル	
展着剤	1 0 ml	*注意事項⑤参照
アントラコール顆粒水和剤	2 0 0 g	(45 日前、4 回)
スプラサイド水和剤	6 6 g	(30 日前、2 回) *注意事項③、④参照
スイカル	1 0 0 g	(カルシウム剤) *注意事項②参照

対象病虫害：黒星病・黒点病・輪紋病・炭疽病・褐斑病・斑点落葉病

アブラムシ類・ハマキムシ類・モモシンクイガ・カメムシ類・クワコナカイガラムシ

10 アール当り散布量： 600 リットル

◆ 散布日： 月 日

◆ 散布量： リットル

【注意事項】 *必ずお読みください。

- ① シンクイムシ類・ハマキムシ類の多い地帯はコンフューザー R (100 本／10a) を 6 月 10 日頃までに設置する。
- ② カルシウム剤「スイカル」の 1000 倍は、ビターピット・果実軟化防止や果実からの油上がり予防、果実の日持ち性向上、新梢の徒長抑制などに効果があるので、必要により加用する。
- ③ スプラサイド水和剤に代えて、ダイアジノン水和剤 34 の 1000 倍（30 日前、4 回）でも良い。
- ④ カメムシ類の発生園は、アルバリン顆粒水溶剤 2000 倍（前日、3 回）を加用散布する。
- ⑤ 通常展着剤（ハイテンパワー等）に代えて、固着性展着剤のアビオン E の 1000 倍を使用すると薬液付着効果が高まる。（詳しくは営農センター担当までお問い合わせください）
- ⑥ 6 月に入り雨や曇天が続く場合や 5 月下旬の薬剤散布が遅れた場合は、上記の日時より前倒しで散布する。

◆ 予備摘果の基本要領

- ① つがる・秋映等の側果はサビが発生しやすいので、出来るだけ中心果を残すことが望ましいが、凍霜害で中心果が欠落している場合は、側果で素質の良い（サビ等程度が軽い）果実を残す。
- ② ふじは側果も利用できる所以、肥大・果形を優先して 1 果そう 1 果にする。
- ③ ふじは早期に予備摘果を行うことが大玉生産につながり、隔年結果も防げる。（次年度の花芽形成に影響）また、凍霜害の影響で、着果量が不足している場合は、樹勢コントロールのため果形不良果でも着果させる。

◆ 仕上げ摘果で残す果実

- ① 花そう葉が多い果実（光合成が活発となる）
- ② 果梗が長く太い果実（落果しにくい、傷がつきにくい）
- ③ 縦長で肩がはっているもの（大玉になる素質ある）
- ④ 果台が 1～2 cm の果実（ふじの場合） *右図参照
- ⑤ 果台枝が 15cm 以下の果実（ふじの場合） *右図参照
- ⑥ 着果位置が良好な果実（収穫前の日当たりが良い果実）



もも・ネクタリンの防除は裏面をご覧ください

- ◇ 本年もせん孔細菌病の多発が心配されます。春型枝病斑が散見されますので、病斑は見つけ次第切除しましょう！
また、定期防除は予防が前提となります。降雨が続く前に散布するようにしてください。
- ◇ 土壌が乾燥傾向です。かん水の実施や樹冠下への敷ワラなどの対策を講じてください。

もも

第6回 定期防除

6月上旬の散布(前回より10日後)

散布時期： 6月6日～11日 *散布時期は目安です

散布薬剤 水 100ℓ
展着剤 20ml
デランフロアブル 166ml(7日前、4回)
バリアード顆粒水和剤 25g(前日、3回)

対象病虫害：せん孔細菌病・黒星病・灰星病・ホモプシス腐敗病
モモハモグリガ・シンクイムシ類・アブラムシ類

10アール当り散布量：500ℓ

- 【注意事項】
- ① せん孔細菌病発生園は、マイコシールド 1500 倍(21 日前、5 回)を加用する。
- ② デランフロアブルはブドウにかかるとサビ・汚れを生じる薬害が発生する場合がありますので、飛散しないよう注意する。

散布日	月	日
散布量		ℓ

ネクタリン

第6回 定期防除

6月上旬の散布(前回より10日後)

散布時期： 6月5日～10日 *散布時期は目安です

散布薬剤 水 100ℓ
展着剤 20ml
デランフロアブル 166ml(14日前、2回)
バリアード顆粒水和剤 25g(3日前、2回)

対象病虫害：せん孔細菌病・黒星病・灰星病・ホモプシス腐敗病
モモハモグリガ・シンクイムシ類・アブラムシ類

10アール当り散布量：500ℓ

- 【注意事項】
- ① せん孔細菌病発生園は、マイコシールド 1500 倍(28 日前、5 回)を加用する。
- ② デランフロアブルに代えてトレノックスフロアブルの 500 倍(30 日前、5 回)でもよい。
- ③ デランフロアブルはブドウにかかるとサビ・汚れを生じる薬害が発生する場合がありますので、飛散しないよう注意する。

散布日	月	日
散布量		ℓ

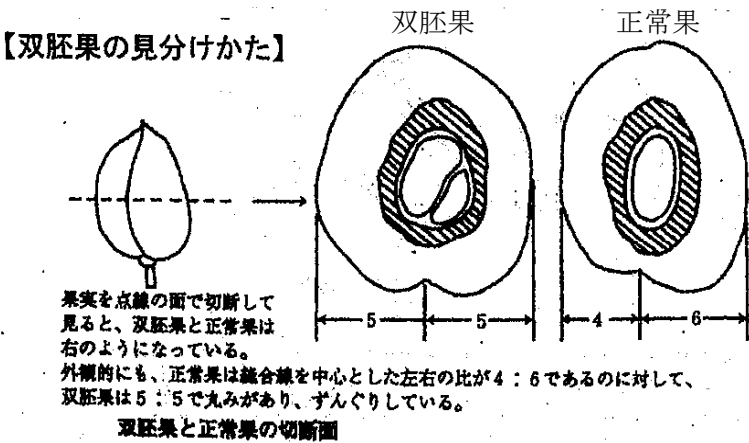
【もも・ネクタリン せん孔細菌病対策 特別散布】

マイコシールドの 1,500 倍(もも：収穫 21 日前まで、5 回。ネクタリン：収穫 28 日前まで、5 回)を、第 6 回防除から 7～10 日以内に散布する。 *ただし、収穫前規制に注意する。

摘果：急に強い摘果を行うと生理落果や核割れ発生の要因となりますので、必ず予備摘果と仕上げ摘果に分けて実施し、樹勢にあった着果量になるよう、ていねいに行なってください。結実量が不足する品種は、品質・着果位置が悪くても基準量を確保しましょう。

	実施時期	程 度
本摘果	満開後 50 日まで (6 月 20 日頃までに)	品種や樹の大きさ・樹齢・土壌の肥沃度を考慮して実施する。 果実の選択：大きくて偏平なもので肌に光沢があるものが良い。つやがなくなった果実は生理落果する。大きくても丸い果実は双胚果である。(双胚果は核割れや落果の一因となる)

*袋掛けの際に再度見直しを行う。なお、無袋においても引き続き見直し摘果を行ない 7 月上旬頃までに仕上げる。



【結果枝別の着果量】

結 果 枝	予備摘果	本摘果
長 果 枝	2～3 個	1～2 個
中 果 枝	1～2 個	0～1 個
短 果 枝	0～1 個	0～1 個 (5～6 本に 1 個)

★土壌が乾燥傾向です。かん水の実施、樹冠下への敷ワラなどを徹底してください。